

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、安心と安らぎ、地域とのふれあい」という地域密着型サービスとしての理念をもとに実践出来るよう、業務の中での出来事を理念と照らし合わせて、毎日のミーティング時に行われている。	いつでも目にするよう建物内の数箇所に掲示されているとともに、ミーティングや夜勤者の申し送りの際に理念をもとに、実際にどう動いたらいいのかが職員間で話し合われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには積極的に参加し、散歩や買い物時などには、利用者と一緒に出掛けることで、地域の方と顔馴染みになるよう、出掛ける機会を多くしている。	地域のきのこ狩り・草刈り・どんど焼きなどの地域活動への参加、町内の見守りをご利用者と一緒に行うなど地域との交流が行われています。中学校との交流も先生と一緒に検討しているところです。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などを通して地域に働きかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、行政や家族の意見を取り入れ、サービス向上に活かしていけるよう努力している。	区長、民生委員、ご家族代表などに参加してもらい、2ヶ月に1回行われています。事業所からの報告に加え、参加者からの要望や意見があり、改善やサービスの向上の取組みに活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは密に連絡を取り合い連携を図っている。	市の担当者からの指導やアドバイス、ご利用者の困難事例の経過説明も事業所から行うなど、連携してサービスの質の向上に取り組まれています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の身体が危険にさらされる可能性が高い時は医師・家族と相談の上、医師より指示がある方のみ拘束を行うようにしている。	職員会議などを通し、玄関の施錠について検討するなどして全職員に身体拘束をしないケアが周知徹底されています。	身体拘束に関する研修の機会がありませんでした。職員の理解を深めるためにも内部・外部の研修の機会を持たれる事を期待します。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の様子観察を常に行い、異常に気づくことができるように、研修に参加し、職員会議等で学ぶようにしたい。	資料の配布に加え、朝の申し送りなどの機会をつかい周知徹底が図られています。	身体拘束同様に虐待についても、職員の理解を深めるためにも内部・外部の研修の機会を持たれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、研修に参加し、職員会議等で学ぶ機会を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族から意見や要望を聞きながら、職員会議や運営推進会議、家族会などで報告し対応している。	相談箱の設置、年に3回の家族会を通して、家族の意見が吸上げられています。事業所の環境美化については家族会から委員を選び協力していただいています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や毎月の職員会議と毎日の申し送りによって反映させている。	半年に一度の人事考課面接、毎月の職員会議、毎日の申送りにより、職員からの意見や提案を聞く機会設けられています。また、本社から管理部長が来たときは職員と面談し、意見を聞くようにしています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の職員に対する気配りを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に対する支援や法人内外の研修会の内容に応じて職員を参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修者や訪問を受け入れたり、こちらから訪問して、他事業者の活動情報の収集を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とゆっくり話しをしながら、不安・要望等を聴き、安心できるような関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが中心となって家族の話聞き、相談内容などで関係機関への相談も行いながら、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問時に本人・家族から意見、要望を聞き取り、対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に関わる時間を大切に、常に笑顔で接するよう努めている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向も取り入れながら行っている。	ご家族の相談にも対応することで、ご家族の気持ちや思いを受け止めた上で、ご家族にも協力してもらい、共にご利用者を支える関係が築かれています。	年4回予定されている広報の発行が年2回となってしまいました。計画的に検討し、年4回のペースで広報の発行をされることを期待します。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所についての情報を把握し、支援に努めている。	馴染みの人や場所についての情報についても新たに知り得た情報については申し送りノートに記載し、職員間で共有するようにしています。また、職員との馴染みの関係も大切にするため、定期的な人事異動は行なっておりません。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態や性格等を把握し、利用者が孤立しないよう、職員の声かけや席配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に訪問したり、入院が長ければ病院へ顔をだしたりしながら、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしが出来るよう努めているが、困難な場合は家族の協力もお願いしている。	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報が記録されています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	提供される情報や日々の生活の中で、把握出来るよう努めている。	個人ごとに生活記録をとるようにし、訪問される方からの情報も記録するようにしています。	生活暦に関する書類の整理ができていないところがありましたので、今後職員と共に見直しをされることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや職員会議などで話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い介護計画を作成している。	モニタリングは毎月実施し、状況の変化が見られるご利用者には随時対応しています。また、定期的な計画の見直しは6ヶ月に1回のペースで行っています。	6ヶ月に1度のサービス担当者会議の開催ができていないところがありましたので、ご家族と一緒に定期的に見直しをされる機会を持たれる事を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載し、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所と連携し、柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医での受診が行われています。受診の際は看護師が同行することもあり、医療機関連絡表を使用するなどして事業所と医療機関との情報交換も直接行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の身体状態の観察を常に行い、異常があれば看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と連絡を取りながら対応している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を尊重し、医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいきます。	契約時に事業所としてできる対応をご家族へ説明し、職員間でも方針の共有をしています。	終末期の対応については本社管理部も含めて事業所の方針を検討されることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、職員会議で勉強会を行い、対応出来るようにしている。	昨年度の課題を受け、7月と11月に普通救命講習に参加しました。また、事業所でも7月の会議の際に緊急時の対応について徹底するなど対応がされています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・天災の避難訓練は行っているが、夜間の訓練を早急に行いたい。	地域住民とともに避難訓練が行われています。また、地域の防災訓練にも参加し、地域との防災に関する連携も図られています。	地震・火災に対する避難訓練は行っていますが、夜間想定避難訓練はまだ行われていないようです。今後計画し、実行されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	注意しながら対応している。	個人情報に関する方針や目的に基づいた取扱いが行われています。また、新入社員オリエンテーションや日々の申し送りを通して、羞恥心に対する配慮が周知徹底されています。	接遇に関する研修の機会を設け、ご利用者に対する対応のレベルアップをされることを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけで働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけしながらその人らしい暮らしを送って頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と話し合いながら対応したり、家族に協力してもらいながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはお願いしながら行っている。	差し入れなどの旬の食材を取り入れ、対応できる範囲内でご利用者の嗜好に応じたメニューが提供されています。また、調理や準備、食事、後片付けをご利用者と職員が共に行われています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等記録し状態の把握をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間で誘導したり、トイレへの訴え時は直ぐに対応する。	排泄チェックを行い、排泄パターンや仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて水分を多く摂取したり、食物を摂取しながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた時間で入浴をして頂いているが、入浴の希望があれば、対応したいと考えている。	もともと保養所であった建物の良さを利用し、浴室は広く、温泉が引かれています。ご利用者の要望(曜日や時間帯)に応じた入浴支援を行なっています。	入浴チェック表に記入漏れがありました。職員間で入浴チェックのルールを再度確認されることを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に声かけしながら、利用者の求める休息を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬表を入れ、常に確認出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握しながら楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ツアーを計画し、家族もいっしょに参加して頂いたり、季節を感じてもらえるよう、その時期にあった場所へドライブに出掛けたり、買い物にいたりしている。	日々のご利用者との会話の中で要望を把握し、日常的な散歩や外気浴に加え、ショッピングセンターへの買い物や観光スポットなどへの外出支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援して行きたいが、現在は難しい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたいと訴えがある時は対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、花や絵や写真・毎月の手作りカレンダーを張り替えながら、居心地よく過ごせるようにしている。又、音楽などでリラックス出来るよう工夫している。	企業の保養所であった建物を改装しているため、広々としており、共有スペースの天井は高く、開放感があります。	高いつくりの為か、天井部の清掃が行き届いていない箇所がありました。職員間で再度確認されることを期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、洋室、ソファなど設置し、利用者が他利用者とゆっくり過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力してもらい、昔の写真や思い出の物を見ながら過ごして頂いている。	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、写真や思い出の品が置かれ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に危険なものを置かないよう、常に整理整頓している。		